

恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館
ニュース

第44号

2015.3.26

福井県立恐竜博物館

特集：日本古生物学界の生い立ち①⑥

- 目次 ▼ 特集：日本古生物学界の生い立ち①⑥「新生代貝類研究と今後の展望」… 2～3
▼ 博物館トピックス「恐竜博物館この一年のあゆみ～2014年度恐竜博物館の動き～」… 4～6
▼ 2015年度特別展紹介… 6 ▼ 新種の福井の恐竜コシサウルスあらわる… 7
▼ 2015年4月～7月催し物案内… 8



オルニトミムス・エドモントニクス

Ornithomimus edmontonicus

竜盤目 獣脚亜目 オルニトミモサウルス類
白亜紀後期
カナダ アルバータ州



新生代貝類研究と今後の展望 (最終回)

筑波大学名誉教授 小笠原 憲四郎

国際共同研究と海外交流

近年の日本の国際的研究を象徴するのは海洋調査船「地球」による地球探査であろう。1960-70年代アメリカの海洋研究所で推進された深海掘削計画はプレートテクトニクスをダイナミックに展開しながら過去の地球の姿を復元してきた。この計画はテーマを変えながら現在の日本の海洋研究開発機構の「地球」による地球や生命理解へのグローバルな研究に繋がっている。このような国際共同研究は、海洋だけでなく宇宙科学などでも大きな進歩があるのは周知のことである。これまでの本シリーズでも我が国古生物学の歴史的レビューで諸外国との関連について触れられているが、明治期の学術全般はドイツの影響が強かったとされ、これは古生物学でも同じ傾向であった。しかし、20世紀に入り世界の国力の変化に応じて、我が国の研究も米国から学ぶ事も多くなり、例えば大正10年(1921)米国ペンシルバニア州立大学教授であった畑井新喜司氏(畑井小虎先生の父君)を東北帝国大学生物学教室に迎え、ここで生態学の重要性に基づいて大学附置の臨海実験場や水族館を導入した例があるが、これは日本の学術史の中でも画期的な事であったと思われる。戦後、日本の古生物学界は徐々に国際交流が活発になってきたが、主として文部省の在外研究員制度等を利用した外国留学経験者によって、国際研究交流が進められた。地質学や古生物学分野の国際研究会では万国地質学会(IGC)や太平洋学術会議(PSC)などへの日本の参加の歴史は古いが、文科省の科研費申請で「国際学術研究」などが活発化しはじめたのも大きかったと思

われる。その一例が東大教授小林貞一の主導した1960-1970年代の東南アジアの古生物研究「Geology and Palaeontology of the Southeast Asia」による成果で、研究者の現地調査を通じて我が国と東南アジアの古生物学研究の土台が構築されたと言える。新生代貝類化石の研究を通じて私が初めて参加した国際会議は第1回「太平洋地域新第三系層序」(CPNS)で1976年、東京の日本学術会議講堂で開催された。これ以降、我が国の地質学や古生物学の国際的研究交流は活発化したように思われる。この新第三紀に関する国際会議は貝類研究者も多数参加して、この東京開催以降4年毎に国や場所を変えながら進められ、十数か国から100名規模の研究者が集いながら今日に至っている。その開催を見ると、第2回がハバロフスク(ロシア1979)、第3回がダニーデン(ニュージーランド1984)、第4回パークレイ(USA 1987)、第5回静岡(1991)(写真1)、第6回スルボン(インドネシア1995)、第7回メキシコシティ(メキシコ1999)、第8回チェンマイ(タイ2003)、第9回つくば(2007)(写真2,3)であった。またこの間にIGCP(ユネスコの基で国際地質学会が認可する国際共同研究課題)や王子財団の援助などを受けた国際



写真1: 貝類研究者、左よりマリノコヴィッチ、グラデンコフ、小高民夫、首藤次男: 第5回太平洋地域新第三系国際会議 (1991静岡)



写真2: 貝類研究者仲間: 第9回太平洋地域新第三系国際会議 (2007つくば)



写真3: 仙台巡検参加者: 第9回太平洋地域新第三系国際会議 (2007つくば)

研究集会などが開催され、世界をリードする大きな成果を上げてきている。これらの国際会議毎の刊行物は講演予稿集や論文集が刊行され、さらに単行本として出版されている。この大半は英文で出版されている(タイトルは筆者の任で和訳): 池辺・土編(1984)太平洋新第三紀基準面: 生層序学と年代学からの貢献(英文)東大出版会, 288頁; 土・千地・高柳編(1988)新第三紀における生物の進化・変遷とそれに関するイベント, 大阪市立自然史博, 78頁; 土編(1990)太平洋新第三紀事件 その時期と自然環境との関連(英文)東大出版会, 206頁; 編(1990)太平洋新第三紀事件層序と古海洋史Palaeogeogr. Palaeoclimat. Palaeoecol., Vol.77, no.3/4 (Spec.Iss.), pp.179-365; 土・イングル編(1992)太平洋新第三紀環境、進化と事変(英文)東大出版, 257頁; クローニン・小笠原・ウォルフ編(1994)太平洋新第三紀の新生代気候と古地理変遷(英文). Palaeogeogr.

Palaeoclimat. Palaeoecol., Vol.108, no.3/4, pp.195-555 (29th IGC, Kyoto); 西村ほか編(1997)王子セミナー京都1995年報告「新第三系における太平洋と他の海洋の開閉変遷」(英文).198頁; ラタナサシエンほか編(2003)太平洋新第三紀古環境とその進化 チェンマイ大学, 429頁; 小笠原ほか編(2008)第9回太平洋新第三系に関する国際会議つくば2007年研究報告 地質調査所研究報告vol.59, no.7/8, 301-438頁。

さらに大学教官の1年間の在外研究制度や学振の特定国派遣研究制度などによる研究交流も我が国の古生物学研究教育に大きな影響を与えてきたと思われる。我が国からは圧倒的に米国滞在中が多い中、ドイツ、英国、フランス、オーストリア、ソ連、イタリア、スウェーデン、ニュージーランドなどに長期一短期に滞在した研究者もあり、多様な国・分野の考え方を学ぶことの重要性を認識させられる。近年では海外の大学や大学院に留学する事も活発になっており、特に大型動物の古生物学研究では着実な発展を遂げている。

海外の新生代貝類研究者

私の海外貝類化石研究者との別刷り交換は50名を越えていた。日本新生代貝類化石の研究で地域的に関係するのは環太平洋地域の国々であるが、実際はヨーロッパや中東も深く関係する。新生代貝類化石では韓国・台湾・中国はもちろんであるが、ロシア・北米、ニュージーランドなどと関係が深い。アメリカでは地質調査所メンロパークの研究者(Addicott, Marincovich, Moore)とは40年を超えた交流があったが、代表的な研究機関として UCLA(Hickman, Rindsberg, T.Susuki)やStanford Univ.(M.Keen教授)、USGS, Reston(C.Nelson)、American Mus.Nat.Hist.NY(N.Newell)、Smithsonian Inst.(T.R.Waller)、さらにJohn Hopkins Univ.(S.M.Stanley)、Univ.Chicago(D.Jablonski)、Univ.Washington(A.J.Khon)、Purdue Univ.

(W.Zinsmeister)、Florida Univ.(A.Oleinik)などがあつた。これらの機関の研究者との別刷り交換や相互訪問なども通して受けた研究への影響は大きい。ニュージーランドとは小高民夫先生が数年講師としてウエリントンに滞在していた関係から独自の交流があり、貝類古生物学ではJ.A.Grant-Mckie(オークランド大)、Alan Beu(N.Z.地質調査所)、オーストラリアではA.Darragh, E.D.Gill, N.H.Ludbrook, S.K.Skwarkoなどと別刷り交換などを継続していた。私自身の学振ソ連派遣研究員(1983-1984の7カ月間)の経験もあってロシア科学アカデミー地質学研究所を中心に古生物学研究所、モスクワ大学、動物学研究所などの方々(Gladenkov, Kafanov, Barinov, Sinel'nikova, Popov, Lutaenko, Neveskaya, Khudik, Titova)等との交流もあつた。ヨーロッパではオーストリア(F.Staininger)、ベルギーの(A.Dhondt)そしてイタリア(G.PiccoliやE.Robba)などの貝類研究者と度々国際会議や日本訪問などを通じて交流があつた。それぞれの国のそれぞれの研究の観点や日本との関連など機会を得て議論し、私自身が得た事も多い。新第三系に関する国際交流では、先のRCPNを契機に大変多くの国の多くの方々には接する機会があつた。ユネスコが関係するIGCP研究では発展途上国との研究交流を進める視点から、中南米や東南アジア諸国、さらに中東地域の方々から貴重な地質古生物学情報を得ることも出来た。国際会議での研究発表や論文を通じての国際交流は、それぞれの研究の背景や手法、その歴史などについても理解を深めることで、国際的な観点から研究の意義を認識することが出来る。国に国境はあるが、研究には国境は無い。

今後の展望と課題

日本古生物学会の過去75年以上の活動の要約は日本古生物学会のホームページを参照して頂きたい。また「古生物学研究教育の課題と展望」とした報告書(82頁)が学会から1993に出版され、その時点での古生物学の状況が

総括されている。これまでの100年以上の我が国の貝類化石の研究に焦点を絞れば、その継続とさらなる発展を期待するが、その主要な課題は周辺科学の進展に伴って対応すべき課題や、古生物学自身の課題として少なくとも次のような事柄があろう：分子系統と古遺伝学や系統分類学への新たな展開、生物生存と同位体地球科学・分析化学・その元素との対応指標(Proxy)への転換、事象のモデル化や数値化・シミュレーション、事象の原因と結果に対するシナリオとモデル化、地球温暖化や寒冷化が誘導した古生物への影響評価と未来へ評価、シロウリガイ等のメタン共生細菌からバクテリア古生物学。学会として組織的に取り組むべき課題も多々あるが、「惑星科学や地球システム学における古生物学の意義と共同研究推進・分類学と後継者の育成・標本類の管理と利用システムの構築・研究のグローバル化と論理のビジュアル化」なども重要である。

おわりに

私自身の40数年間の新生代貝類化石の研究に基軸を置いて、4回にわたって学界の動向を述べてきたが「温故知新」のことわざのように、生物(古生物)は地球環境を表現する実証物であり、過去から未来を繋ぐ地球の存在物そのものである。宇宙や地球の理解を深め、古生物学を探究する楽しさなども感じて頂きながら、さらなる貝類学や古生物学の発展を祈念して、話を閉じる。



恐竜博物館この1年のあゆみ

2014年度 恐竜博物館の動き

ミュージアムショップリニューアル

当館のミュージアムショップが「DINO STORE (ディノ ストア)」として、リニューアルオープンしました。4月26日(土)のオープニングセレモニー後には、多くの来館者が新しいミュージアムショップを訪れました。



[オープニング時の店内の様子]

特別展の開催

日本スペイン交流400周年記念イベントの一つとして、特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」を開催しました。今回の特別展では、スペイン側の協力を得て、世界的に珍しい「こぶつき恐竜」コンカベナトールなど、世界初公開となる多数の恐竜化石を展示し、入場者は開幕66日目に昨年度より2日早い、過去最速で15万人を突破し、最終入場者数は約18万人に達しました。

期 間 2014年7月11日(金)～10月13日(月・祝)(92日間)
入場者数 176,405人



[2014年度特別展開幕]

野外恐竜博物館の開館

勝山市北谷町杉山地区の恐竜化石発掘現場に整備を進めてきた野外恐竜博物館が完成し、7月19日(土)にオープンしました。11月9日(日)の営業終了までの間に、約2万4千人の方が利用され、「実際に恐竜時代の植物や貝類の化石を発掘できてうれしかった」、「ナビゲーターの案内がわかりやすかった」など多くの方から好評をいただきました。2015年度は、4月25日(土)から営業を開始する予定となっています。

期 間 2014年7月19日(土)～11月9日(日)

利用者数 23,628人



[野外恐竜博物館全景]



[野外恐竜博物館 化石発掘体験]

東京と関西で民間企業とのコラボイベントを同時開催

夏の誘客・PR活動、さらには野外恐竜博物館のオープニング記念として、初めて民間企業とのコラボイベントを実施しました。恐竜全身骨格等の貸出のほか、期間中、恐竜博物館研究員によるトークショーや期間限定恐竜オリジナルメニューなどでコラボイベントが盛り上がりしました。

◆オリックス不動産(株)とのコラボ

期 間 2014年7月19日(土)～9月21日(日)(65日間)

会 場 すみだ水族館(墨田区)

期 間 2014年7月19日(土)～9月24日(水)(68日間)

会 場 京都水族館(京都市)

◆(株)東急ハンズとのコラボ

期 間 2014年7月19日(土)～9月15日(月・祝)(59日間)

会 場 東急ハンズ渋谷店(渋谷区)
東急ハンズ梅田店(大阪市)

第四次恐竜化石発掘調査

2013年からスタートした第四次恐竜化石発掘調査の2年目の調査が、7月28日(土)から始まりました。

期 間 2014年7月28日(土)～9月6日(土)

調 査 地 勝山市北谷町杉山
面 積 骨化石層 約260㎡



[発掘調査現場]

発掘調査の成果

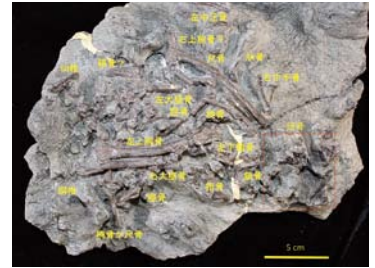
①恐竜や翼竜の連続足跡化石発見

今年度の調査では、フクイティタンと関連する可能性が高い竜脚類の前後の足跡や翼竜の足跡化石が発見されるなど、多くの成果が得られました。

②日本初の中生代の

鳥類全身骨格化石を確認

昨年度の調査の結果、日本で中生代の鳥類骨格化石として、初めてほぼ全身が保存され、しかも最も原始的な種類の骨格化石が確認されました。



[中生代の鳥類全身骨格化石]

通算入館者数が600万人を突破

2000年7月14日の開館以来の通算入館者数が2014年8月11日(月)に600万人を突破し、記念セレモニーを開催しました。600万人に到達した延べ年月日数は14年と28日ですが、そのうち500万人から600万人に到達した期間は502日で、100万人の区切りとしては過去最短記録になっています。



[600万人突破記念セレモニー]



絵本作家のイベント

アニメ映画化もされた絵本、「おまえうまそうだな」をはじめとするティラノサウルスシリーズで人気の絵本作家宮西達也氏が昨年に引き続き8月25日(月)および26日(火)に来館し、読み聞かせライブやイラスト創作などを行いました。



【スペインの恐竜「コンカベナトル」イラスト創作】

夏休み期間中の入館者数が過去最高を記録

恐竜博物館の夏休み期間中の入館者数が247,271人と2年連続で20万人を突破するとともに、過去最高を記録しました。

また、月別入館者数をもっとも多い8月の月間入館者数が191,995人と月別最高記録を更新しました。



【夏休みの混雑状況】

京阪神地区での積極的なPR

京阪神地区におけるPR活動の一環として、初めて阪急西宮ガーデンズでPRイベント「恐竜王国ふくい 恐竜ワンダーランド2014～福井から恐竜がやってきた～」を開催しました。アルシャウルスの全身骨格(複製)などの展示のほかに、来場したお客様にフクイラプトルの全身骨格(複製)を使った組み立て体験や、恐竜缶バッジづくりをしていただきました。

【期 間】 2014年9月13日(土)～9月14日(日)

【会 場】 阪急西宮ガーデンズ(西宮市)
【来場者数】 約22,800人



【開催状況】

若狭路恐竜展が開幕

2014年10月4日(土)から11月16日(日)にかけて、美浜町で若狭路恐竜展が開催されました。会場には、全長約11メートルの大型肉食恐竜スコミムスをはじめ、恐竜博物館所蔵の25体の全身骨格標本など多く標本を展示し、県内外の多くの来場者の関心を集めました。



【パリオニクス全身骨格(若狭路展会場内)】

秋・冬の企画展

恐竜博物館と福井放送の主催で、企画展「行列のできる恐竜パラダイス～恐竜を動かすのはキミたちだ～」を開催しました。子どもたちの動きに反応する恐竜ロボットや恐竜3D映像など、恐竜を間近で体感できる恐竜パラダイスを演出しました。

【期 間】 2014年11月1日(土)～2015年1月12日(月・祝)

【入場者数】 43,375人



【3万人突破記念セレモニー】

タイ・シリントーン博物館との姉妹提携

恐竜博物館では、2007年からタイの研究機関と共同で、タイ東北部において恐竜化石共同発掘調査を行っています。シリントーン博物館は、タイにおける恐竜研究の拠点で、これまで調査研究交流を深めてきたところですが、2014年11月25日(火)、さらなる関係強化を期し、恐竜博物館と姉妹提携を結びました。



【シリントーン博物館の位置】

ガチャピンが1日館長に就任!!

来館者の皆様へのクリスマスプレゼントとして、国民的キャラクター「ガチャピン」が1日館長を務めてくれました。朝10時、ジュラチック王国のキャラクター3体をはじめ、たくさんの子どもたちが待ち構える中、ランドクルーザーに乗ったガチャピンが登場。歓声を受けながら博物館正面玄関に到着し、1日館長委嘱式の後、来館者の皆様との記念撮影や館内巡視など館長としてのお仕事を次々とこなしてくれました。

【期 日】 2014年12月23日(火・祝)



【ガチャピン1日館長】

ダイノ新年会

新年をお祝いする「ダイノ新年会」を2015年1月3日(土)に開催しました。館正面玄関前では、くす玉割り、数々の賞品を用意した300組の抽選会、恐竜獅子舞、新春恐竜もちつき大会と祝い餅のふるまい(協力:かつやま恐竜の森活性化連絡協議会)を行い、めでたい初春をジュラチック王国のキャラクター3体をはじめ、雪の中を御来館いただいた皆様と一緒にお祝いしました。館内では、ミュージアムショップの初売りや福袋の販売、カフェ&レストランの新春にちなんだ期間限定デザートも提供されました。



【ダイノ新年会セレモニー】





春の企画展



恐竜博物館と福井テレビの主催で、北陸新幹線金沢開業記念、福井県立恐竜博物館開館15周年記念企画展「SPRING DINOSAUR STUDIO ～ようこそ！恐竜模型とトリックアートの工房へ～」を開催します。

恐竜模型や3D恐竜トリックアート、最新で最大の動く恐竜ロボットの展示など、恐竜に親しみながらその魅力を身近で体験できる企画展です。ぜひご覧ください。

【期間】2015年3月13日(金)～5月10日(日)(57日間)

春の首都圏PRイベント

「北陸新幹線金沢開業」および「福井県立恐竜博物館開館15周年」を首都圏でPRするため、恐竜イベント「タカシマヤ タイムズスクエアに福井から恐竜たちがやってきた！」を首都圏最大級の繁華街、新宿において開催します。

【期間】2015年3月14日(土)～4月7日(火)(25日間)
【会場】タカシマヤ タイムズスクエア

春の中京圏PRイベント

「北陸新幹線金沢開業」および「福井県立恐竜博物館開館15周年」を中京圏でPRするため、恐竜イベント「恐竜と太古の海の生物ー福井から恐竜がやってきた！ー」を中京圏の観光施設としては人気が高い名古屋港水族館において開催します。

【期間】2015年3月17日(火)～5月10日(日)(51日間)
【会場】名古屋港水族館

(滝本博康、竹内 一)

南アジアの——特別展—— 恐竜展(仮称)のご紹介

会期
(予定)

2015年7月10日(金)～10月12日(月・祝)
(博物館休館日を除く)

2015年度の特展は、タイ・ラオス・中国南部など、南アジアの恐竜たちにスポットを当てます。この地域では、三畳紀から白亜紀後期まで、恐竜時代全般にわたる様々な話題が盛りだくさんです。さらに、ラオスでは恐竜が現れる前(ペルム紀後期)の脊椎動物化石も見つかっています。

南アジアでの恐竜化石の発掘・研究の歴史は意外と古く、1930年代にまでさかのぼります。その最初期にラオスで発見されたのが竜脚類のタンバヨサウルスで、本特別展では尾椎や恥骨などの標本が日本初公開となります。またラオスでは近年、アジア初の明らかなスピノサウルス類のイクチオベナトールが発見・命名されており、これも日本で初公開されます。スピノサウルス類は背中に帆のような突起をもつ魚食性の獣脚類ですが、これまでアジアでは歯などの断片的な化石が見つかるのみでした。イクチオベナトールは、背骨や腰部の骨など多くの部位が見つかり、背中の「帆」のほぼ中央部には特徴的な縦の「切れ込み」があります。

タイでも近年新たに発掘された化石をもとに研究が進み、新種の恐竜が続々と発表されています。今回の特別展では、全長15.5mの竜脚類ブウィア

ンゴサウルスを筆頭に、アジア最古の恐竜イサノサウルス、肉食恐竜シャモティラヌス、福井県立恐竜博物館とコラート化石博物館が共同で発掘したイグアノドン類など、多種多様な恐竜たちが登場します。このほか、ワニやカメ、硬鱗魚など、恐竜と同じ時代に生きていた動物たちの標本も日本初公開となります。

中国南部からは、ジュラ紀前期に雲南省で栄えた原始的な竜脚類と、ジュラ紀中期～後期に四川省に現れた大型の竜脚類オメイサウルスや獣脚類ヤンチュアノサウルスを展示します。白亜紀の恐竜としては、浙江自然博物館が所蔵する卵化石やヨロイ竜などをご紹介します。これらの化石は福井県立恐竜博物館と浙江自然博物館との共同発掘事業で発見されたものです。卵化石は最近、浙江省のとなりの江西省からもたくさん発見されており、本展では恐竜が産卵した巣の形がそのまま保存された化石が展示されます。

タンバヨサウルスやブウィアノサウルスは白亜紀前期の地層から発見されましたが、福井県で発掘している北谷層の時代と近く、フクイティタンとも近縁な関係があります。このように、南アジアの恐竜は進化や移動の研究に重要な意味をもっています。この



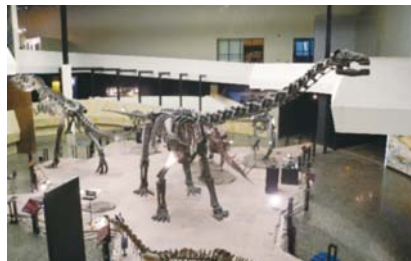
■イクチオベナトール(原画：山本匠)

地域の恐竜とそれをとりまく古生物化石が、世界的にも注目されていることを、わかりやすく解説する特別展になりますので、ぜひお越しください。

獣脚類研究の第一人者であるイギリス・エジンバラ大学のステファン・ブルサット研究員と、鳥類の初期進化を研究している中国科学院古脊椎動物・古人類研究所の周忠和所長の講演会も予定しています。(関谷 透)



■ラオス：サワンナケート恐竜博物館



■タイ：ブウィアノサウルスの全身骨格(シリントーン博物館)

新種の福井の恐竜 あられる!!

2008年の第三次発掘調査で発見されていたイグアノドン類の上あごの骨化石が、比較研究の結果、フクイサウルスとは別種の新種であることが明らかになり、「*Koshisaurus katsuyama* (コシサウルス・カツヤマ)」として命名されました。学名は、『越の国』のKoshiとラテン語の『トカゲ』を意味するsaurosとの組み合わせで、種小名katsuyamaは発掘地のある『勝山市』に由来します。(写真1)

コシサウルスはフクイサウルスと近縁なイグアノドン類ですが、①前眼窩窓(目の入る穴の前方にある穴または窪み)の痕跡があり、②反対側の上顎骨との関節で繋がる部分の溝が浅いなど、フクイサウルスとは異なる特徴があります。全体的に見ると、「がっしり」しているフクイサウルスに対して、コシサウルスは比較的「ほっそり」していたと考えられます。(写真2)

発見された場所は、従来から発掘調査を行っている勝山市北谷の恐竜化石発掘現場です。しかし、フクイサウルスやフクイラプトルが発見された地層とは異なる地層から発見されました。(写真3)

コシサウルスとフクイサウルスがいた白亜紀前期は、ヨーロッパや北米にいた原始的なイグアノドン類が、アジアへと生息域を広げ、多様化する時代でした。しかしながら、その化石記録は中国やモンゴルなど大陸内部のものが多数を占めます。今回の発見は、アジア大陸東縁にも多くのイグアノドン類が存在していたことを示す重要な証拠です。

また、国内でイグアノドン類の化石は多く発見されていますが、1か所か

ら2種類が確認されたのは初めてで、あらためて福井県の恐竜化石発掘現場から発見される恐竜の豊富さが認識されました。

現在行われている第四次恐竜化石発掘調査で、より保存状態の良好で完全な個体の発見を目指し、コシサウルスおよびフクイサウルスの全体的な姿を明らかにしていきます。

(柴田正輝)



▲写真1

コシサウルスの発見部位



▲写真2

コシサウルスの発見場所



▲写真3

恐竜博物館カレッジの ご案内

2015年4月～7月

パブリックコース

博物館セミナー

地球と生命の物語

場所/研修室
 申込/電話、FAX、E-mailにて

■① 東南アジアの化石カメ類
 日時/5月17日(日) 13:00～14:30
 内容/ミャンマー中央部の新生代の地層からは巨大なリクガメやスッポン類の化石が見つかっています。現地での発掘生活から研究の成果までやさしく紹介します。タイの恐竜発掘で見つかるカメ化石についてもお話しします。
 講師/園田 哲平

■② アンモナイト・貝類たちの世界
 日時/6月14日(日) 13:00～14:30
 内容/福井県の九頭竜地域や勝山地域から見つかるアンモナイトや貝類の化石は、どのような自然環境の中で生きていたのだろうか。アンモナイトや貝類のからだのつくりから生息環境までを紹介いたします。
 講師/後藤 道治

■③ 恐竜時代の哺乳類たち
 日時/7月19日(日) 13:00～14:30
 内容/恐竜時代の哺乳類には私たちがイメージする以上に、様々な生活に適應したものがいました。北谷の化石も紹介しながら、哺乳類の初期の進化について紹介します。
 講師/宮田 和周



ギャラリートーク開催
 当館研究スタッフが、展示標本を前に30分程度のお話をします。開催日時、集合場所等、当館ホームページのイベント案内をチェックして下さい。

※所定の方法にて、行事名、氏名、年齢、住所、電話番号を、博物館までご連絡ください。開催日の一ヶ月前から受付を開始し、定員に達し次第締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の時は抽選となる場合があります。
 ※当館Webサイトの行事案内ページ (<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/>) もご覧ください。

ジュニアコース

博物館自然教室

場所/実習室
 対象/小学生以上 (小学生は保護者も参加) 20名
 申込/往復ハガキ、E-mailにて

■肉食の歯をくらべてみよう
 日時/4月12日(日) 13:00～15:00
 内容/肉食の哺乳類たちには、肉や骨をかみ砕く機能が歯に見られ、動物のグループによって形が違ってきます。歯のレプリカを作ってクイズ形式で進める楽しい授業です。
 担当/宮田 和周

■恐竜の体重を調べよう
 日時/5月10日(日) 13:00～15:00
 内容/恐竜などの絶滅した生物は骨の化石しか残っていないので直接体重を測ることはできません。しかし、恐竜凶鑑などには体重が載っています。これらの体重はどのように調べるのでしょうか。この教室では絶滅した生物の体重の推定のしかたを紹介し、実際に模型を使って体重を推定してみます。
 担当/久保 泰

■なぞの恐竜を研究しようⅢ
 日時/6月7日(日) 13:00～15:00
 内容/博物館には恐竜の全身骨格が並んでいますが、発掘現場で見つかるのは断片的な化石だけという場合がほとんどです。部分的な標本から、どんな恐竜の、どこの骨なのか一緒に考えてみましょう。博物館の展示の中に、ヒントがかかれています。
 担当/関谷 透

■木の化石をとかしてはがしてみよう
 日時/6月21日(日) 13:00～15:00
 内容/木の化石を磨いて酸で溶かして、シールを貼り付けて、そのシールをはがすことで木材の内部が観察できるプレパラートが作れます。そのプレパラートから木の種類を調べます。
 担当/寺田 和雄

キッズコース

恐竜ふれあい教室

対象/4歳～小3の親子 15組
 場所/実習室
 申込/往復ハガキ、E-mailにて

■親子で恐竜パズルをつくろう！
 日時/4月19日(日) 13:00～14:00
 内容/恐竜のぬり絵がパズルになります。親子でつくって楽しみましょう。
 講師/島田 妙子

■親子で恐竜メッセージボードをつくろう！
 日時/5月24日(日) 13:00～14:00
 内容/恐竜レプリカに色をぬってメッセージボードをつくらせます。
 担当/島田 妙子

■宝探し！金色の鉱物をさがそう！
 日時/6月28日(日) 13:00～14:00
 内容/鉱物には多くの種類があり、きれいな宝石もあります。今回は黄鉄鉱という金色に輝く鉱物を泥の中から探して、どんな形をしているか観察します。見つけた鉱物は10個までお持ち帰りいただけます。
 担当/千秋 利弘

■親子で化石の消しゴムをつくろう！
 日時/7月5日(日) 13:00～15:00
 内容/消しゴムになる粘土でアンモナイトと三葉虫の消しゴムを作ります。
 担当/島田 妙子

■親子で恐竜模型をつくろう！
 日時/7月11日(土) 13:00～15:30
 内容/恐竜の骨格をもとに、粘土を使って恐竜を復元します。
 担当/恐竜造形家 荒木 一成 先生
 申込/往復ハガキ、E-mailにて。
 受付は6/11～18、抽選にて参加者に通知

福井県立恐竜博物館展示解説書 販売中

福井県立恐竜博物館の展示解説書は、「恐竜の世界」「地球の科学」「生命の歴史」の三部構成で、それぞれ展示と対応した詳しい解説がなされています。子どもから大人まで楽しめ、かつ研究者にも適した、まさに恐竜博物館の魅力をあますところなく凝縮した一冊といえます。
 10周年の展示リニューアルへの対応版です。ぜひお買い求め下さい。



■A4 210ページ オールカラー
1,600円

注文方法
 お求めの冊数、送付先住所を明記の上、代金と送料を現金書留にて当館までご送付下さい。送料等のお問い合わせ、お申し込みは恐竜博物館まで。

